

JaSST Review' 19

パネルディスカッション

～レビュー時の思考などを深掘りする～

本セッションで話すこと

- 各発表内容の**共通点・相違点・印象**を話し合う。
- 施策時の**思考**について話し合う。
- **会場の皆さんが気になった内容**を話し合う。

登壇者の紹介

登壇者の紹介

- パネリスト
 - 津田 和彦 様（筑波大学大学院）
 - 岡野 麻子 様（三菱スペース・ソフトウェア）
 - 深谷 美和 様（toRuby（とちぎRubyの勉強会））
- モデレータ
 - 風間 裕也（ビズリーチ、JaSST Review実行委員長）

テーマ1

発表内容について

発表内容の共通点・相違点・印象

【質問】

お互いの発表内容を聞いて、

- 「私も同じようなことを考えている！」
- 「私の場合は違う！」
- 「この言葉が印象に残った！」

といったことはありますか？

発表内容で気になったこと

津田様の発表(事前)

- 文書校正と同様にレビューも**形式知**にできる？
- 赤ペン付き原稿がないから**自分で赤入れ**した
- ミスの種類を**分類し、形式化**していった
- **見るのは全体、作業は局所**

発表内容で気になったこと

津田様の発表(当日)

- ソフトウェアのドキュメントに**恋愛小説はない**
- 直し方が違うのに両方OK→**閾値を超えればOK?**
- 重い荷物を持って**移動中に規則性を探した**
- **形態素辞書と校正知識**を使ってミスを探す
- 100点を目指すのではなく**80点を目指す**

発表内容で気になったこと

岡野様の発表(事前)

- 違和感や愚痴に課題は隠れている
- ツールは成果物のベースを保つために使う
- 「なぜやるのか？」を大切にする
- 設計内容の「正しさ」はツールに期待しない
- ツールを導入して終わりではなく、ふりかえる

発表内容で気になったこと

岡野様の発表(当日)

- ツールの推進と**セットでレビューの目的啓蒙**も
- ツール利用の目的は**誰でも同じようにできる**ため
- 課題は**誰かの違和感や愚痴を聞く**ことから始まる
- 手段選択時に**本来の目的に合ってるか再確認**する
- チームで**納得**して進めていく
- プロセスを**変えた部分を可視化**する
- ツールに期待すること、**期待しないことを明確**に
- レビュー**対象文書の目的を共有**する

発表内容で気になったこと

深谷様の発表(事前)

- どうやったら**壊せるか**考えている
- 20年分の**チケットを読み込む**のが日課
- 自分の**感情**に目を向ける
- 想定外を見つけるのではなく、**想定を広げる**
- 差分が大きくなるように**周波数を合わせる**
- 違和感をつかまえた瞬間に**声を出す**

発表内容で気になったこと

深谷様の発表(当日)

- いつもの状態や理想・期待値と今の状態との差分
- 脳がプライマリ、チケットや文書はセカンダリ
- 話題になっていないこと、昨日と違うこと
- 製品を知る、妄想、他者の違和感、自分の感情
- 想定外を見つけるのではなく想定を広げる
- 自身のバグもシグナル(過集中＝注意力散漫)
- つかまえたものに周波数を合わせる
- 気のせいかな？のほとんどは気のせいじゃない

テーマ2

違和感の源泉

津田様の発表内容より

【課題】

赤ペン付き原稿がない



ないなら作る

自分で



岡野様の発表内容より

ツールを使う前の課題（愚痴・違和感）

✓成果物のレベルがバラバラ

これでちゃんと確認しているのかなあ...
(セルフレビューやってる！？)

✓文言がバラバラ

✓体裁確認に時間がかかっている

どのような確認をしているのかなあ...
(時間掛けすぎじゃない？)

✓ツールを使ったチェックプロセスが不確定

なんでこのツール使わないの？

✓複雑な承認フロー、わかりにくい利用手順

なんでこのツールなの？

深谷様の発表内容より

なぜ、感じる事ができたのか？

- 製品を知っているからこそ感じる事が圧倒的に多い
 - よい製品、わるい製品のイメージを持っていた
 - 設計の難しいところ、間違いやすいところを知っていた
 - 過去の不具合を知っていた（再現手順や現象、原因も）
 - 原因を知ることは、設計や実装を知ることにつながる
 - 起きたら嫌なことを知っていて、類推していた

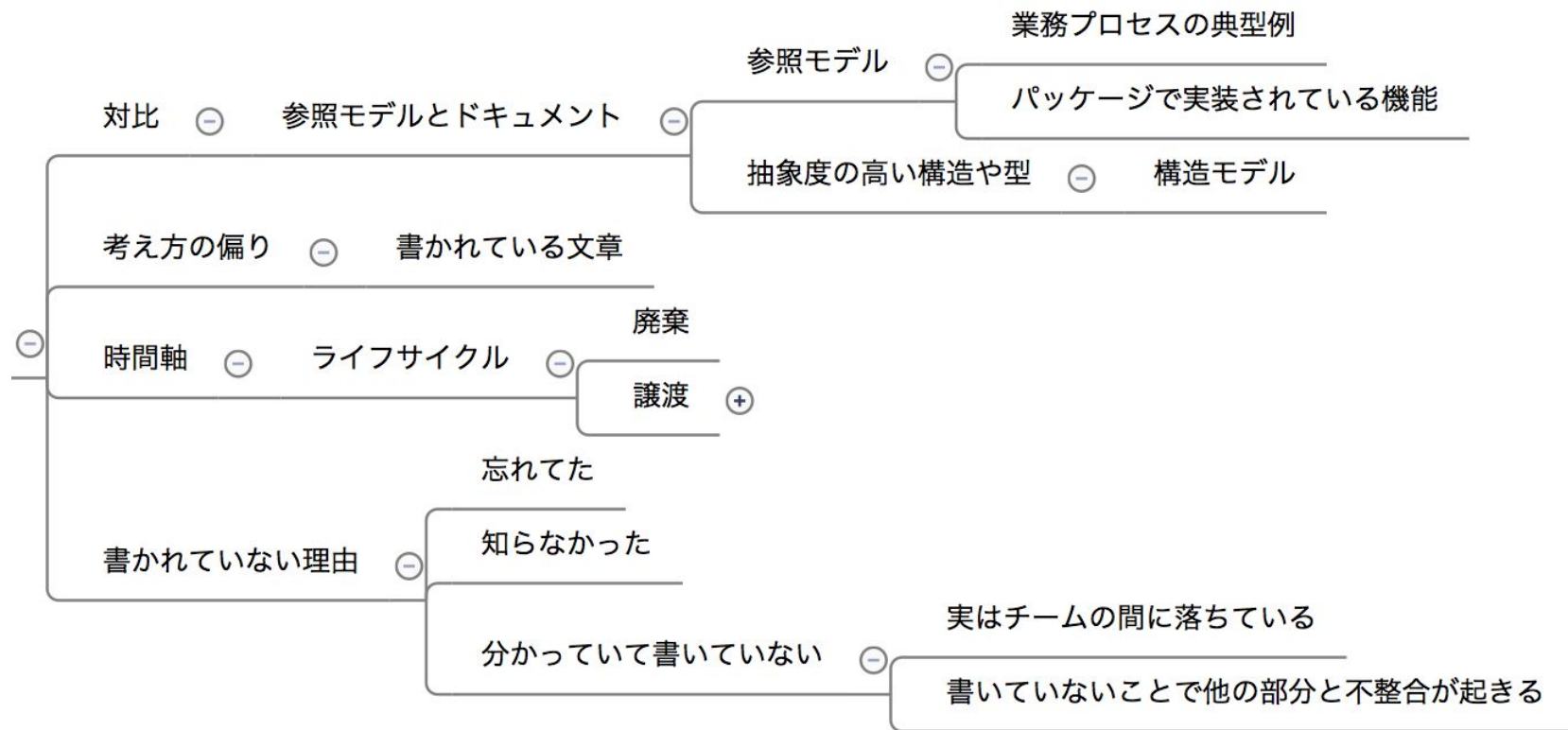
違和感は過去の経験との比較？

【質問】

初見だと違和感を見つけられないのでしょうか？

- 全く知らない分野の製品だったら…？
- 全く新しい分野の製品だったら…？

参考:書かれていないものを見つける



テーマ3

対人での違和感

深谷様の発表内容より

朝会やディスカッションの場で

● 同僚の様子や言動を観察している

- 顔色、声のトーン、疲れてそう、目が泳いでいる
- 話している内容が分かりづらい
- いつもは分かりづらいのに、今日はやけに流暢
- 質問に対しての回答が直球で返ってこない
- 正しそうなこと、良さそうなことを言っている
- うまくいきすぎている
- サラッと流れてしまったもの、話さなかったことは何か
- 「そういう仕様です」
- 「ずっと前からそうなっています」
- 「大したことない変更」
- 「今回はマージするだけなので」
- 「全部やりました」

昨年のパネルディスカッション 「深掘り対象を見つける手がかりは人である」

- その人が**どのような背景で**書いているかが大切
- 発表者の**自信がなさそう**な部分
 - 曖昧な言葉
 - きちんと思考して書かれていないことが多い
 - 「なんとなく」
 - 「〇〇さんが言ったから」
- **自信満々**になっている部分
 - 詳しい内容を省略している可能性が高い

人と対峙して違和感を見つける

【質問】

対話からどのように違和感を見つけますか？

参考：違和感を確かめるための質問例

- これって何をしたいんだっけ？
- ごめん、ここの部分、もう一度説明して？
- これって、こういう意味？
- こういう場合はどうなの？
- そもそも何をしたいんでしたっけ？
- ちょっと図にしてみて？

テーマ4

仕組み化・形式知化

津田様の発表内容より

文書校正が形式知できるのなら
ソフトウェアレビューも形式知に？



仕組み化

FB例1 ～影響範囲～



[影響範囲]

<対象機能・対象画面>
△△△△△△ページ。

<対象パス>

src/main/java/jp/co/worksap/foo/bar/○○○.java

<影響範囲詳細>

△△△△△△ページにしか利用していないので影響はありません。

【指摘事項】
なぜ「影響なし」
と言えるのか
その判断の根拠が
書かれていない。

JaSST' 17 Hokkaido 風間の発表より

(新入社員が多い中で効果的な
レビューを行うための方法)

<http://jasst.jp/symposium/jasst17hokkaido/pdf/S2-1.pdf>

仕組み化

【質問】

普段のレビューや相談内容を仕組み化することは可能だと思いますか？

また、何か仕組み化できていることがあれば教えてください。

テーマ5

会場の皆さんからの質問

**最後に
登壇者の方々から一言ずつ**